

第64回寒河江市都市計画審議会 (都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定 第2回) 議事概要

日時：令和7年2月14日(月) 14:00~15:30

会場：寒河江市役所議会会議室

出席委員：9名(欠席2名)

◆ 委員

- ・ 空き家が平成28年から令和2年までに234件から345件に111件も増えたということ、この空き家問題は寒河江だけではなく全国各地で大きな問題になっていると思う。
- ・ 使える空き家に関しても相続などいろいろな問題があるかと思うが、空き家を利用して移住者を誘導するなど、なるべく空き家を活用していけば、少しずつ解消できるのではないかと思う。
- ・ 今、寒河江市では、学校問題、病院問題などいろいろあるが、例えば陵東中学校の近辺に貴重な農地があるため、農地転用はなるべく最小限に留め、学校・病院等は現在地を有効活用していくことが良いと思う。

◆ 委員

- ・ 中学生や高校生と話したところ、若い人は地元に残るという気運があまり見られないのがすごく残念だと思う。まちには雇用の場がないのでどうしても人口の多いところに行ってしまうというのが一番の理由か。また、中学生に元気がない。高校生に会うとますます元気がない。非常に残念なこと。
- ・ 今日の日本経済新聞によると、仙台市の人口も減っているとのこと、東北全体が下り坂に差ししかかっている状況。これではバラ色の計画を考えても、果たして実施できるのかという危惧の念しか持てない。
- ・ 中央工業団地に寒河江工業高校がある。地元にある会社は工業高校の卒業生を求めているが誰も来ない。これではせっかく新しくした高校の意味がないという気がする。
- ・ 今日の新聞に積雪で空き家が潰れる話があった。自然の猛威に対しても空き家が潰れる状況では、有効活用どころでなく何ともならないという気がしている。知事も頑張っていると思うが、その結果は見えない状況。学校だけでも一生懸命改革してほしいが、なかなか効果が表れないと思っている。

◆ 委員

- ・ 山形県内を見ると、その中で寒河江市はまだ希望が持てると思っている。やはり土地の良さ、気候の良さ、あとは災害を受ける区域が少ないということ。建設業などそういう底力がある岩手の住田町というところが、仮設住居を用意したということがある。このように、どこかが災害を受けたときに受け入れる準備を進めていくのも1つかなという気がしている。

◆ 委員

- ・ 寒河江市は小中学校の再編や市民病院の建設という非常に大きな動きの中にある。最近、山形県内は様々な公共交通について、各市町で住民の足として、いろいろな整備を進めているが、何と言っても車両の移動が確実に becoming。まちの動きに合わせた道路の整備はしっかりと見ていかないといけないと思う。
- ・ まちに動きがあって、道路ができて人の流れが変わってくると、交通の監督がある程度変わってくるので、区域整備を進めていく中で道路環境の整備が大切になってくる。
- ・ 足の確保が定住化という部分にも影響すると考えているので、まちの変化、道路の変化に合わせた市民の動線をその都度しっかり把握して、需要に合わせた公共交通の整備等、今後の計画の中で考慮いただきたい。

◆ 委員

- ・人口が減少していくため、コンパクトシティという考えは大賛成。都市計画道路で今現在進めているのが落衣島線である。令和8年度にずれ込む可能性もあると聞いているが、終わったら延伸ということで市道8号の方に進むような話がある。前のマスタープランでも載っているが、本当にそれでいいのか。
- ・都市計画道路の山西鶴田線が2,000mほどあり、その330m、船橋地区が中抜けになっている。そのため、寒河江駅から西寒河江駅にJRに沿ってある市道若葉町小和田線が、朝、非常に渋滞するという問題が生じている。山形方面から寒河江工業団地の方に通勤する最短経路になっているが、幅員が5m弱であり、歩道もなく、歩行者や自転車、工業高校に通われる方もあり、朝の7時半から8時半ぐらいまでが一番混み、たまに大型車が入ってくるため非常に危険な状態である。この道路を整備すれば全部交通転換すると思うので考慮してほしい。
- ・今、市道柴橋平塩線を建設管理課で整備されていると思うが、これは現在の都市計画道路とルートが少しずれている。幅員が狭いからその整備に至ったのかもしれないが、なぜこの路線が先行していて、都市計画道路が整備されていないのか。

□ 事務局

- ・市道柴橋平塩線は通学路になっており、どうしても歩道を整備してほしいという地元からの要望があった。通学路を担っているため、緊急のものということで整備が急がれたもの。
- ・その脇を通る落衣島線の都市計画道路については、近場を通る道路を2本整備する必要はないため、前回の都市マスの見直しの際に道路線形を見直すという整理をしたが、計画変更については時間を要するため、いまだにその計画が修正になっていない状況である。今回の都市マスにおいて今後整理していきたい。

◆ 委員

- ・コンパクトシティを目指すという提言があったが、より思い切ったコンパクトシティを目指してくような計画にしていかなければ、将来、人口が増えているという状況は考えられない。
- ・高齢者率も高くなり、市もバスを回して病院に送っていただくが、独居老人も増えているので、地域とのつながりに配慮しながら、まちなかに集約できる場所として、よりコンパクトなまちづくりを目指していかないといけないと思う。

◆ 委員

- ・資料について、絵に描いた餅にならないよう、我々もしっかりやっていきたい。
- ・工業団地の中にある企業誘致について、今回、固定資産税の軽減は6年になるという話は聞いているが、現在工業団地には物をつくる企業ではなく、倉庫や運送業など、人をあまり必要とせず、土地だけ多く利用するような企業がたくさん入っているようなので、寒河江にも人口が増える米沢のような企業を誘致してほしい。
- ・公共施設等について、特に、寒河江地区は中部小学区、寒河江小学区と2つに分かれた。公共施設は寒河江小学区の方に固まっており、中部小学区には公共的な施設がほとんどない。例えば公民館は南部、西部、中央地区にあるが、一番人口の増えている中部地区にない。今回、学校や病院の再編をするので、その跡地の有効活用をする際にはその点を十分に考慮していただきたい。
- ・地域防災力について、寒河江市は自然災害に強く、ほとんどないに等しいが、地震は寒河江地区や西村山地区にとっては大きな問題があるかと思う。地域防災訓練をする場合や、各家庭や公民館等で補完するような訓練ができる地域には市でどんどん助成金を出して、安全な対策を取っていただくようお願いしたい。

◆ 委員

- ・20年間の計画ということで、住みやすいまちづくりには、経済効果を含め、道路整備が非常に重要である。朝夕共に工業団地関係を含めて様々なところで渋滞が起きているが、実際の交通量からどこに一番問題が起きているのかなどを調査し、どの道を造ったらい

いか計画を立てていくと良いと思う。

- ・先日、左沢線で仙台の飛行場に行こうとしたときに、山形からアクセスするための高速バスが出ていたが、乗り継ぎの時間が全然ないので自家用車で行った。電車からバス、バスから新幹線、様々なところで連携もしていただきたい。JRのダイヤ編成は並大抵のことではないので、あえてバスの調整の必要性は高いかと思う。
- ・フローラ・SAGAEの整備とあるが、フローラを本当に賑わいの場所にしないといけないのかと思う。10代、20代、30代の若い人たちへのアンケート調査などをして、これからのフローラ・SAGAEをどうするべきか考えた方がいいのではないかな。現状のまま使うのか、それとも解体するのか含めて考えてほしい。
- ・寒河江の中央工業団地は間もなくいっぱいになりそうである。そうすると次の工業団地ということで、方向性としてどの辺に団地をつくっていくかを考えていただきたい。
- ・日本は災害があると暑いときでも寒いときでも体育館に避難する。健常者の人が感染死していくことという阪神淡路震災からの教訓がいかされておらず、考え方を改めるべきではないかと思う。高齢者率がだんだん高まってくるので、この点を考慮し、避難所関係の施設も考えていただきたい。

◆ 委員

- ・空き家の問題については立地適正化計画の施策に期待している。私のことだが、コンビニも遠く、雪が降るとなかなか出づらいところもあり、塾やスーパー、コンビニが遠いというのは、利用しづらいと感じている。
- ・近年主要産業になりつつあるインバウンドなど観光の点について、観光客数はコロナ禍以降、徐々に戻ってきているとのことだが、おそらく全国の状態とは比較にならない程度の伸びだと思う。観光客の獲得や、人口が減っているような状況でどうやって産業を興すかというところも議論していきたい。
- ・バスについてデマンドバスなど実施いただいているが、慈恩寺やチェリーランドなどに行きやすい観光面のバスが少ないように感じているので、観光面も考えてほしい。
- ・寒河江工業高校の人が外に出ていきたいというのは当然で、私も分かるが、なかなか朝、雪かきをして学校に行くのも大変なことで、魅力的な産業が少ない状況からもやはり仙台や東京に出ていきたいという気持ちもあるのではないかと感じている。
- ・人材確保が難しくなっている中、観光も視野に入れつつ、長期的な視点での魅力ある事業の創出を検討しているので、その辺も考えていければと思う。

◆ 委員

- ・仙台に行くと山形の人が魅力的に見えるという。そういう意味で言うと本当に、山形の人に来てほしいという引きは結構あるのだと思う。働き者だし、細かいところに気がつかれるところが非常に多い。そういう気遣いができるのは非常に貴重な人材で、そういう人たちに寒河江に残ってもらいたいと思うので、場所を選んでほしいというのは本当にその通りだと思う。

◆ 委員

- ・寒河江川の土地改良区は寒河江と河北が3,000町歩を目安にして国営事業を行えるように合併したと思う。病院や小学校とか工業団地などで農地が減ることになるが、3,000町歩を切ると国の事業はできず、県の事業になり、個人農家の負担が増える。今、資材の高騰など言われている中であり、そういうことがないような形にしていきたい。
- ・河北と寒河江で話し合いが必要なことだと思うので、その点を併せて検討をお願いしたい。

□ 事務局

- ・前回の都市マスの見直しのときにも同様のお話をいただいた。農地を横断していくというのは前回の見直しの中でも大きなテーマであり、農地が生み出す景観の保全もその際の重要なテーマであるので、課題の整理に景観の意義も掲げていきたいと思っている。その中で、可能な限り空いた公共用地の活用をし、農地乱用は防いでいく一方、町並みの整備という部分もあるため、皆さまには十分慎重な御審議をいただきたい。

◆ 委員

- ・ 大手のスーパーが今年着工の予定だったが、テナント関係が集まらず、今年も田んぼは作ってくださいという話があった。その話は市も把握しているか。農業関係者から聞いた話のため、詳しくは分からないが、大手のスーパーが来るにはもう 1 つのテナントが二の足を踏んでいるということだった。そうすると一部の農家の人が心配で、せっかく土地が売れると思ったのにとの話であった。

□ 事務局

- ・ 国道 112 号線と県道の村山寒河江線の交差点部分の東側に大手の流通小売店が来るという話は承知しており、この部分については商業地区としての利用を進めていくことをお示ししている。
- ・ 詳細の部分、まだこちらには情報が入っていなかった。今後、計画策定の際にはどういう位置づけにしていくか計画の中で定義していきたいと思っている。把握していない情報については今後情報収集に努めたい。